

1 部

学習サポート

各種申込締切について

- 『試験・スクーリング情報ブック2019』にてご確認ください。
 - ・ p. 4～5 → 学年暦
 - ・ p. 20～25 → 通信教育部カレンダー
 - ・ p. 46～49 → 社会福祉士 演習・実習科目関連締切等
 - ・ p. 50～52 → 精神保健福祉士 演習・実習科目関連締切等

11 / 25 ～ 1 / 26 の追加・変更点

- スクーリング追加開講（※詳細は p. 27参照）

台風19号により中止となった下記科目について、振替スクーリングを開講します。前回申込者が優先となるため、定員に限りがございます。

 - ・ 「児童・家庭福祉論」 12/21～23（盛岡）
 - ・ 「社会福祉援助技術論A・B」 12/21～23（東京）
- オンデマンド・スクーリング追加開講（※詳細は p. 32～33参照）

「教育・学校心理学B（学校心理学）」 オンデマンド14

台風 15、19、21 号の影響により被災された皆様へ

台風15、19、21号に伴う大雨、暴風にて被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

教科書・副教材（『学習の手引き』、レポート提出台紙など）に破損や流失などの被害を受けられた方には無料で再交付をいたします。また、被災により配慮等を希望される場合は通信教育部へご相談ください。

（詳細は p. 43参照）

資格の取得に向けた 勉強方法について

教員MESSAGE

准教授 石附 敬

1. はじめに

社会福祉士や精神保健福祉士の資格取得を目標に、本学で学ばれている方は多いと思います。今回は、これらの資格取得に向けた学習をどう進めていけばよいのかについて、私の大学教員としての経験を基に述べます。

私は現在、本学の通信課程と通学課程において、社会福祉士の養成に携わっていますが、日々学生と関わる中で、このような質問をよく受けません。

- ①国家試験（以下、国試）の勉強はいつから始めたら良いですか？
- ②いつから過去問題に取り組んだ方が良いですか？
- ③国試に向けた勉強はどのように進めたら良いですか？

皆さんもこのような悩みを少なからず持っているのではないのでしょうか。ここでは、試験勉強をいつから、どのように進めていくのかについて私見を述べたいと思います。

2. いつから勉強を始めたら良いのか？

社会福祉士や精神保健福祉士になるためには、国試に合格して、厚生労働省に登録する必要があります。そのため、国試に合格することが最終目標と考えてしまうかもしれません。しかし、大学では合格者を増やすことは大切ですが、その先には専門職を養成するという使命があります。国試では、専門職に必要な知識、技術の一部を評価しているに過ぎないということを忘れてはなりません。繰り返しになりますが、専門職を目指す皆さんは、国試に合格することが最終目標ではなく、その専門職性（価値、知

識、技術)を身に付けた上で国試に合格することが目標となります。ですが、これら専門職性を身に付けることと、国試に合格することは別物ではなく、一体的にとらえることができるものです。では、このような目標に向けていつどのような勉強が進められるのか、①基礎知識を得る段階、②基礎知識を活用する段階、③国試対策の段階、に分けて説明します。

(1) 基礎知識を得る段階

これは、大学における日々の学習の段階で、入学時から始まります。国試の指定科目の内容は、専門職養成における所定の基準に則っています。後述しますが、国試の出題範囲はこの基準に基づいて行われることになっていますので、指定科目の学習は国試に向けた勉強につながっています。そのため、この基礎知識を得る段階では、できるだけ日々の科目の学習を丁寧に行うことが重要です。この段階を十分に行えないと、国試対策の段階で、もう一度学び直しをすることになってしまいます。

しかし、1年生や2年生にとっては、「今の学習が国試に本当に活きるのか？」と疑問に思うかもしれません。そんな時は、試しに現在学んでいる科目の国試の過去問題をいくつか解いてみてください。そうすることで、今学んでいる知識がどのように試験で問われるのかが分かるでしょう。

(2) 基礎知識を活用する段階

この段階は、今まで学んできた知識を実践的に活用してみる段階です。通常では、援助技術演習や援助技術実習においてこの機会を多く持つことができます。これらの場面では、ソーシャルワークの価値、知識、技術を使いながら実践的に学ぶことができます。例えば、実習の事前学習では実習施設の種別に応じて必要な制度を整理して学びますが、覚えるだけでは十分ではなく、ソーシャルワーカーとしてクライアントに分かりやすく説明できるレベルにまで達することが求められます。また、実習中は、ソーシャルワーカーが実践場面でどのように専門性を発揮しているのか、どこまでの知識を習得する必要があるのかが具体的に実感できます。これが専

門性についての深い学びにつながっていくのです。私の教員としての経験上、実習後に勉強に熱が入る学生を多く見てきました。これらの学生は学んだ知識がソーシャルワークの実践にどう活かされるのかが明確になり、国試という暫定的なゴールの先にある専門職としての道が見えたからなのだと思います。

(3) 国試対策の段階

この段階は、前述の二つの段階の次にあるものです。まさに、国試に合格するという目的に絞って努力する段階です。通常は早い人では3年次の終わり頃から始まり、遅い人でも4年時の夏には本格的な受験勉強が始まります。この段階は、これまで学んできた基礎知識の基盤を活かして行われるため、学習が十分に行われていない人は、この基盤作りをなるべく早く、できれば3年次までに終わらせることが大切です。具体的には、早い段階で教科書を全て読み終えるということも有効です。では、以下に国試対策の方法について簡単に説明したいと思います。

3. 国試対策の進め方

国試対策は、国試に合格するための準備ですので、方法を明確にして計画的に実施することが大切です。計画を立てる際に、①試験の範囲を知ること(相手を知る)、②現状を把握する(己を知る)、③計画的に学習する、④実践的に力をつける、といった要素を組み込むと良いでしょう。

(1) 試験の範囲を知ること(相手を知る)

これは、国試対策の勉強を進める前に行う必要があります。国試には出題基準があります。これを把握することによって、効率よく試験勉強を進めることができます。社会福祉復興・試験センターのサイトに社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験に関する情報が掲載されています。ここで、試験の出題範囲、合格基準の説明を良く読んで把握してください。科目によっては講義で扱っている内容でも、試験にはでない領域があります

ので、そこについては国試対策の勉強に入れる必要がなくなるわけです。また、合格基準については、重要な点が二つあります。一つは合格の基準は概ね6割の正解が必要であること、二つ目は0点の科目が一つでもあると総得点が6割を超えても不合格になることです。

(2) 現状を把握する（己を知る）

次に、これまでの学習でどの程度知識が定着しているのか、自分自身の到達状況を知ることが必要になります。私がお勧めしたいのは、最新の国試の過去問題を実際に解いてみることです。前述の試験センターのサイトには過去問題と正答が公表されていますので、これらを入手して、実力を試してみてください。そうすることによって、得意な科目や不得意な科目が分かり、今後どれだけ勉強しなくてはならないか自分自身の現状がはっきりわかることでしょう。もし難しすぎて刃が立たなかったとしても、そこから計画を立てて勉強すれば良いだけなのです。早めに己を知ることが、国試対策にとって最も大切なことです。

また、通信教育課程では春から国試対策講座を開講していますので、この講座に積極的に参加することで、勉強のポイントや自分自身の知識の定着度の確認をすることができ、試験勉強を効果的に勤める助けになると思います。

(3) 計画的に学習する

自分自身の実力が把握できたら、それに合わせて学習の計画を立てることが必要になります。全く自信のない科目がある場合は、前述した方法で、できるだけ早めに基礎知識の基盤作りをしましょう。

国試対策の勉強としては、通常、過去問題集（模擬問題集を含む）と参考書が使われることが多いと思います。問題を解いて、わからないところは参考書で確認し、必要なところは情報を整理してノートにまとめる（参考書や問題集に書き込む）ことを循環的に繰り返していきます。その際に、気分が向いたときに好きな科目だけ取り組むのではなく、毎日何時間、何の科目をいつ行うか、いつまでにどこまで終わりにするか、といっ

た具体的な学習計画を立てておくことが重要です。過去問題集を何回も繰り返し返していくと、初めは勘で回答していたものが、次第に根拠が明確になっていきます。この状態になれば、しめたものです。確実に力がついている証拠です。問題集を何回繰り返すかは人によって違いますが、4回以上はできると良いと思います。過去に合格した人の中には9回繰り返した努力家もいました。

(4) 実践的に力を付ける

国試対策の勉強の成果を測る方法として、模擬試験を受けることがあります。実際の試験と同じ時間で実施される模擬試験を受けることによって、自己の到達状況を知ることができますし、また、試験に慣れることができます。模擬は本番ではありませんので、点数が悪くても気落ちせず、結果の分析を行ってください。6割以上の得点の人はこの調子で努力を続けていくこと、6割弱の人はもうひと頑張りですし、それより低い得点の人は苦手科目を底上げするための作戦を練り直しましょう。最終的に合格できれば目標達成ですから、最後まであきらめないことが大切です。

4. 最後に

1、2年生にとっては、国試はまだまだ先のように感じるかも知れませんが、今回説明したように、日々の学習が暫定的な目標としての国試への合格と、その先の専門職としての道につながっています。3、4年生については、各自の段階によって国試に向けた取り組みは異なりますが、方法を理解して計画的に取り組むことで目標に到達することができると思います。最後に、専門職になる道のりは、特に通信教育で学ぶ皆さんにとっては孤独な戦いかもしれません。しかし、実習での経験、スクーリングや対策講座で共に頑張っている仲間が存在、皆さんが社会福祉士や精神保健福祉士を目指した根底にある思い、全てをエネルギーに変えて頑張ってください。教員として皆さんの学習をサポートしていきたいと思います。

スクーリング・アンケートより(1)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

●情報処理の基礎 高橋 俊史

- ・先生が丁寧に教えてくださり、また他受講生とも教え合いコミュニケーションのきっかけにもなりました。毎日使用しているワードやエクセルですが、初めて知った機能があり、勉強になりました。

●リハビリテーション論 稲垣 成昭

- ・リハビリテーションは機能回復だけを目的にするのではなく、当人が生活全体、つまり、どのような生活をして何ができるようにしたいのかを見据えた総合的な支援が重要だと考えさせられた。

●社会福祉法制 菅原 好秀

- ・苦手な法律のことをわかりやすく判例をもとに知ることができて、とても勉強になりました。少し法律のことが好きになりました。
- ・ポイントをおさえながら解説していただき、今までの学習のおさらいや復習になり、よかったです。先生の経験や事例から講義と結びつけるのは、面白くわかりやすく、まさに「楽力」につながる学びの原動力となり、それを体現している先生がすごいと思いました。

●特講・社会福祉学20(コミュニティ・ソーシャルワークII) 高橋・池田・菊池

- ・グループワークを中心にして、まとまりのあるスクーリングだった。
- ・地域づくりを実践している先生の話をもとに直接聞くことができてよかった。
- ・3人の先生方の話を伺うことができ本当に至福の時間でした。また、グループワークを通し、沢山のことに気づき、深めることができました。多様な仲間と多様な視点で新しい気づきを見つけていきたいです。

●特講(地域と生活) 村田 修広

- ・地域包括ケアに移行した流れが大変わかりやすく、これまで何となく理解していたものが、自分のなかで腑に落ちた。地域の力、生活する人々の力を感じた内容だった。
- ・多くの方が考える福祉と、その地域において長く続いてきた文化や生活のなかにおける考えや知恵などは、必ずしも一致しないところがあると感じた。そのなかで、どのように外から関わられるか、考える必要があると思った。

●医学一般VTR 井手 貴治

- ・「その学問がどのような学問か、知ってから学び始める」という教えは、すべての科目に共通することであり、とてもいいことを教えていただいた。まず目次から読んで、構成や伝えたいことを理解してから学び始めたいと思った。